

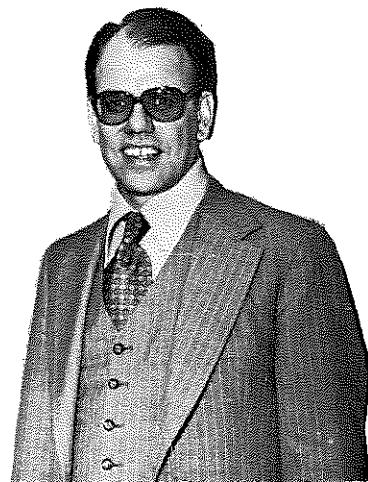
PAUL C. POLLEI 教授来日

ポール

ポレイ

各地で公開講座—参加者に感銘

5月14日から2週間、東音の招きでポール・ポレイ教授がアメリカから来日。東京をはじめ大阪、姫路、静岡、茨城などを訪れ、各地でマスタークラスや個人レッスンを行った。ポレイ氏はこれまで日本の知名度がなかったが、今回の来日で講演をきいた人々は一様に、その人格と教授法のすばらしさに深く感銘をうけたと語り、再来日が強く要望されるなかで5月28日羽田をたち、次の演奏会地ハワイへむかつた。



ポレイ氏はアメリカカユタ州のブリガムヤング大学の音楽理論、ピアノ専攻の名誉教授であり、アメリカ各地やヨーロッパ、カナダの大学で教えるかたわら、定期演奏会を開催するなど幅広い活動を続けている。著作「ピアノ指導の奥義」をはじめ雑誌などにも寄稿。今回の来日あたっては「全日本ピアノ指導者協会の福田靖子女史を訪問」と題してアメリカの新聞でも報道された。

合衆国音楽指導者協会・ユタ州の副会長でもあるポレイ氏は故ヨルダノヴィック女史の遺志をうけつぎ、姉妹関係にもある日本とアメリカの協会の交流の発展のためにも努力したいと語った。氏はブリガムヤング大学において毎年音楽フェスティバルを主催しているがそこで催さ

れる国際コンクールに、日本でのコンクールの優勝者を招待することを約束した。

おりからハワイで開かれているコンベンション（全米ピアノ指導者協会の北西、南西部地域が主催、代表はドレスケル女史）においてポレイ氏はコンサートで演奏することになっており、福田氏からドレスケル女史にあてた手紙をたずさえて日本をはなれた。

DR. POLLEI SCHEDULE IN JAPAN

5月 14(土)	ポレイ氏来日	21(土)	会員の池田先生宅においてプライベイ・トレッスン。
15(日)	東京巢鴨において公開講座	22(日)	茨城県竜ヶ崎を訪れる。竜ヶ崎支部主催のマスタークラス。
16(月)	東京スガナミ楽器において公開講座、内野先生 (桐朋音楽学校講師)宅でプライベイト・レッスン	23(月)	京都観光
17(火)	ピアノ練習	24(火)	大阪三木楽器においてレクチャーリサイタル。 夜、伊奈和子宅で歓談。
18(水)	田村宏学芸大教授宅を訪問、桐朋大学を訪ね三善 晃学長、大島正泰、林秀光両先生にあいさつ、歓談、夕刻プライベイトレッスン	25(水)	姫路支部で公開講座、姫路見学
19(木)	東京江古田末日聖徒キリスト教会でコンサート	26(木)	日本楽器浜松工場見学、静岡県焼津支部で公開講座
20(金)	ズスキ才能教育を見学。全音楽譜出版社、芸術現 代社、音楽之友社、各社訪問。夜小林仁コンチェ ルトのタペをきく	27(金)	東京調布支部でレクチャ。鈴木公江先生宅で創 作指導見学。
		28(土)	銀座でショッピングを楽しむ。福田氏の家族と夕 食のち帰国

Letters from students

聴講者からのたより

「エリーゼの為に」はアメリカの子供にもあこがれの曲

——ポレイ先生をむかえて——

藤原亜津子（竜ヶ崎支部）

連日の workshop にもめげず、5月22日（日）に竜ヶ崎へおい出下さったポレイ先生は、約5時間に及ぶレッスンを実に見事な御指導で参加者40名（生徒達）（レッスン受講者内9名）に、深い感銘を与えてくださいました。ポレイ先生のお人柄が気どらず、大変明かるく、レッスンでのお話が解りやすくどの生徒にも理解できた事が、大変有意義でした。受講曲目と演奏者の年令は

ドビュッシー	アラベスク第一番	20才
ペートーヴェン	エリーゼのために	6才
〃	ソナタ3番 Cdur 第一楽章	18才
〃	〃 5〃 Cmoll 〃	18才
〃	〃 16〃 Gdur 〃	17才
〃	〃 17〃 テンペスト〃	17才
〃	〃 20〃 Gdur 〃	16才
バッハ	インベンション8声より8番	12才
リスト	エチュード op.1 のNo.9	18才

今迄に数回公開レッスンを試みてきましたが、いつも収穫大なるものがあります。それは、私自身の勉強になることはいう迄もありませんが、生徒達が他の先生のレッスンを受けることによって先生の人間性や考え方方にふれ、表現法、演奏法が色々あることを知ることが出来ること。その後の勉強態度が意欲的になり、演奏内容が以前より豊かになること。私と生徒の間には長い間に起る慣れ合い的なレッスンの雰囲気があるのですが、他の先生のレッスンということの新鮮さや、緊張感が生徒によい体験になること。メリットをあげたらまだまだありますが、私も生徒も共に勉強していこうという意欲がわくことが、何よりうれしいことです。

最後にポレイ先生の素晴らしい演奏をきかせていただき感激しました。又生徒の「エリーゼのために」は日本では私達のあこがれの曲ですが、アメリカの子供はどうですか？という可愛い質問にポレイ先生は「アメリカの子供達も同じですヨ」とニッコリされてなごやかに閉会となりました。



——公開レッスンを聴講して——

渡利由子（8才）（竜ヶ崎支部）

ポレイ先生のレッスンは大変感動して、その夜はあまりねむれませんでした。月曜日も、ポレイ先生のことばかりうかんでくるのです。5時間あまり、あんなにピアノを長くきいたのは、はじめてです。

ポレイ先生はとてもきびしくて、うけた人は大変だろうなあと思います。オーバーにそれを表現させます。私がうけたらそれこそもうダントンになってしまふんじゃないかなと思います。でも受けてみたい様な気持もします。私はポレイ先生のレッスンをきいて今でも忘れられない、それ程感動したのです。

村瀬薰（14才）（竜ヶ崎支部）

公開レッスンを聴講して2週間もたつたのに未だあの時の感動がさめません。それは私だけではないと思います。皆が強い感動を受けたに違いないと思います。ポレイ先生は表現がとても大きく、英語があまり分らない私達でもよくわかり、とても楽しく受けられました。やさしさの中にきびしさがあり、初対面と思えない親しみがありました。

5時間という長い間がとても短かく感じ、誰もが、私もレッスンを受けてみたい！と思ったに違いありません。私はこのような公開レッスンを聴講できる環境にいることをとても幸福に思います。又公開レッスンを企画して下さった藤原先生に感謝の気持ちでいっぱいです。

川野典子（池田先生門下生）

小さい人たちにも両方のペダルを使って弾くのはびっくりしました。でもそれが大変良い曲想となり喜こんでいます。実際に弾いて下さるのでよく理解でき身につくような気がしました。

ふつう外国の先生は時間がくると終わらなくともレッスンを中止してしまうと聞いていましたが、ポレイ先生は時間にこだわらず長い時間熱心にみて下さいました。曲の中でスーパーレガートやボリュームのある音の大切さやタイミングなどよくわかりました。これからももっと勉強して機会があったらぜひポレイ先生に見ていただきたいと思います。

=Work Shop=

BEETHOVEN'S PATHETIQUE MOONLIGHT SONATA

「悲愴」「月光」 の指導のために

—5月15日 ポレイ氏公開講座—



5月15日、巢鴨さんとろべにおいてポール・ポレイ氏の公開講座が開かれました。午前中にベートーヴェン、午後にはドヴィッシャの各曲をとりあげられました。楽譜のすみずみにわたって細かい表現と合理的なテクニックを豊かな音楽的知識と経験をもって話され、聴講者を魅了しました。

ここでは午前中のベートーヴェン「悲愴」と「月光」の一部をとりあげて紹介します。なお当日の録音テープは東音で借りることができます。

ピアノソナタ OP 13 「悲愴」

ベートーヴェンのピアノ作品を弾く際に大切な事は、その奏法について、彼の楽譜に忠実に弾かなければならないことです。バッハは、その弾き方については、何の要求もしていません。しかしベートーヴェンの作品に対しては、『神様に対するように頭を下げて』そのタッチ、フレージング、ダイナミックス、強弱など正確に演奏しなければならないのです。彼の作品の構成は、非常に壮大で高度な内容を持っていますから他の作曲家よりたくさんの事を要求されます。

〔I 楽章〕

まず最初に、和音が連続して出て来ているので、コードをつかませる練習をさせましょう。あるコンクールで女の子が、誤ったコードで弾いているのを聴いたことがあります。耳慣れる事が重要ですから、長短増減の和音のコードをしっかりとつかみ取って練習することが必要です。

次に ff , f , p , sf の記号が見られます、これはベートーヴェンの性格を表わしていると考えられます。白黒をはっきりつけて下さい。強い音を弾く場合の4, 5の弱い指を補うために、私は子供のおもちゃで指の訓練をしていますが、先ほどのコードの練習も指の訓練になります。

ます。また、効果的な使い方は、楽譜通りにただ弾くのではなく、自分で考えて弾き易いよう変える事ですね。

(第1小節)

Grave の指示が始まっているので、できるだけゆっくりシリアルスに弾いて下さい。 $f \rightarrow p$ へのバイブルーションはペダルと手首を使い、次の音を弾く前にすでに p にしてしまう奏法を用います。ふたたび、ほんの軽くたたくだけで、途中のバイブルーションは消えてしまします。 sf の記号の箇所は、ペダルを充分生かして部屋全体に充満させるように響かせるとよいでしょう。



(第5小節)

$p \rightarrow ff$ つまり白→黒へと耳を慣らすのには、これもペダル効果的に使うことです。前の小節につられて、決して速くならないで下さい。Grave の指示を守り続けることは、後の速い楽章をより効果的にする為でもあるのです。そして $p \rightarrow ff$ の間は、少し待つことです。そしてハイドン、モーツァルト、シューベルトの曲にもよく見られますが、長い音符に「よりかかるように弾く」ことは、連続和音の出てくるこの内容にかなっています。



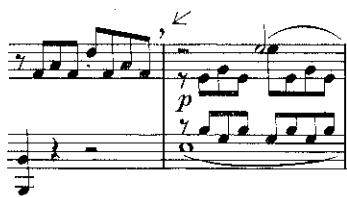
(第93小節)

ここからの右手は、「メロディアクセント」と言われるペートーヴェンのスタカートの特色です。他のソナタでもよく見受けられる重要な箇所です。小さなベルのように弾くことを心がけます。



(第101小節)

101小節の前のカムマは、とても意味深いことと言わなければなりません。f→pへの調節をするために、少し待つこと。はっきりさせるためのものです。丁度目がフラッシュライトを浴びて普通の光に調節できるようにするまでの過程と似ています。今まで「ピンピン」はねていたのを押さえる奏法への転換ですね。



[II 楽章]

私は、この楽章を初めて来る生徒に試験する為によく使います。つまり、その子の「心」がよく表われるからです。リストは、この楽章について「指は鉄のように、心はバターのように弾きなさい。」と言いました。

ソプラノに出てくる4, 5の指を練習して、指の弱さを補強して下さい。そして手首を高く上げて、最後まで楽に弾いて下さい。

[III 楽章]

拍子を2分の2拍子の感覚で弾くことを、改めて見直してから弾き始めるように。拍子のリズムはとても大切です。4分の4拍子に刻まないようになりますが大切。

そしてスラーの最初をはっきり、最後は弱くして下さい。

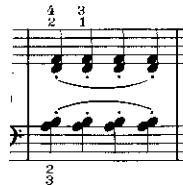
(第16小節)

ひじを使って上からではなく、キーのそばで音をつかみ取って和音を弾いて下さい。(グラーブテクニック)



(第44小節)

これは、レガートで弾くことを意味します。スタッカートの印がついているのは、タイと間違えないようにするためのものです。細かいペダルは、続けて弾いて下さい。二つのペダルの上に足を置き、いつでも踏めるように準備して置くことが大切です。なるべく動きを少くするため。



ピアノソナタ OP. 27 の 2 「月光」

I→II→IIIへとテンポが速くなって行く曲ですが、I→II, II→IIIへと、そのテンポを倍の速さにしていくと全体の統一が取れて行きます。

[I 楽章]

この楽章は、とても穏やかな平らな面を要求されます。そして正確にテンポを保って下さい。またレガートの箇所は、弦楽器のように暖かみのある音を出して、全体の静寂さを保つように心がけることが大切です。とても我慢強くなくては弾けませんし、恋をしている人でなくては弾けない曲ですね。

(第37小節)

この箇所は、スムーズレガート、または、スーパーレガートと言う表現を用いることがあります。最後まで2分の2拍子を忘れないようにしましょう。

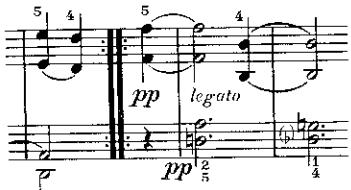


〔II 楽章〕

トリオの箇所は、最初のメヌエット風な出だしと対比をつけねばなりません。例えば「男と女」「ダンスと歌」など。つまりスタッカートとレガートの対比です。

〔第45小節〕

ベートーヴェンとブラームスの pp は、「芸術の世界から他の世界へ連れて行くようなピアニシモ」という表現を、私はよく使います。そしてこの楽章の sf は、デリケートな音が要求されます。



〔III 楽章〕

指をはっきり上げて、最初はゆっくり練習しなければなりません。1つ1つの音を離してスタッカートで練習したり、また色々なコンビネーションの符黒音符を考え下さい。

ボレイ氏日本の印象を語る

★日本で印象的だった6のこと。町がキレイなことおいしい料理（日本料理はワンダフル）『おしほり』町を一人で歩けること—ニューヨークなどの町ではとても一人では出歩けません—よいピアノがあることすばらしい人々。

★4～5才から16才までの日本の子供さんの程度が非常に高いし成長も早いですね。日本では一人の先生につくとずっとその方に教わるそうですが、アメリカでは大学生などどんどん教授を変えます。一人の先生に長くつくとその教え方になれ、多くのことを吸収できますが、教え方が合わないような時は生徒の力がのびないという欠点もあります。

日本ですばらしいと思ったのは日本の子供の45～50%の子供が何らかの形で音楽を習っているときいた事です。多くの人たちが音楽に興味を持っているということはピアノの将来にとっても明るいことです。

★私のいるブリガムヤング大学のあるユタ州は大変教育を奨励していて、私の町プロヴォでは90～95%の子供たちが音楽を習っています。全米でみれば18～20%ぐらいです。

★ブリガムヤング大学は学生数2万5千人で、ピアノ科と声楽科にそれぞれ400～500人、そして他の楽器にもそれ位の学生がいます。外国学部には日本語は勿論デンマーク語やヒンドゥ語など世界各国の語学を教え

〔第120小節〕

息をすってお腹で弾くように。ピアノを持ちかかえるようにすることによって、楽器が自分のものになるような体整で弾かねばなりません。アルフレッドブレンデルは、「ピアニストの敵はピアノである」と言っています。



〔第163小節〕

この小節は、ベートーヴェンの時代には、とても野生的に聞こえました。オーケストラ全体が響いているように、体全体を使ってダイナミックに弾いて下さい。



ています。

★日本ほどではありませんがアメリカでもピアノの教師は女性が多いですね。大学では男子学生も教師になるようすめています。私の大学で一番優秀な15人のうち10人は男子の学生です。世界的なピアニストでの男性が多いのは特に理由があると思いませんが、やはりコンサート旅行などきついからかもしれません。

★毎年6月末に私の主催で音楽フェスティバルを開きます。マスタークラスやコンサート——今年はリリークラウス女史などを呼びます。そしてピアノの国際コンクールもやります。これは16～30才までのピアニストを対象におこなうもので一位には1500ドル二位には500ドルの賞金がです。福田先生が主催なさるコンクールの優勝者を来年御招待します。もちろん審査員として福田先生にも来ていただくようお願いしています。

者 姚五
と
津月二
支部六
の日
経
レッ
スン
会館
受講

